



木童 通信 vol.63

平成 28 年 6 月発行

木童 東京ショールーム

open 月～金 10:00-18:00 土 11:00-17:00
close 日・祝(事前予約いただければ日祝の見学も可能です)

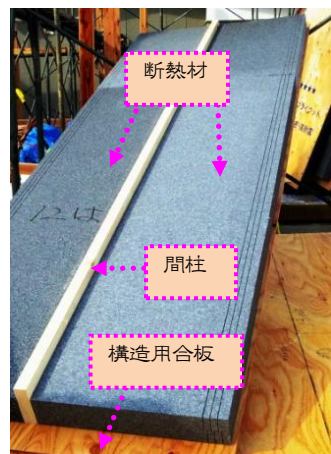
東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ 1F
TEL:03-5358-5125 FAX:03-5358-5126
URL:http://www.kodoh.co.jp

木童 神戸事務所 兵庫県神戸市北区大沢町 437
TEL:078-954-0072 FAX:078-954-0257
E-mail:muku@kodoh.co.jp

★東北行脚 仙台・盛岡・秋田・角館 後編

1日目の宿である盛岡を朝一番に出て、秋田に向かいます。ここには新型の断熱パネルでの建て方を見学に来ました。木童には『3BASE』という規格型住宅の別事業があります。在来工法で工期短縮と予算削減を成し遂げるため、断熱材一体型のパネル工法という考え方に至りました。この断熱パネル、通常は柱間に外側から押し込むため、柱とパネルの間に1~2mmのクリアランスが必要です。しかしそのわずかなクリアランスが、延床30坪程度の家になると量1枚分もの断熱欠損が出来る計算となり、その隙間を埋めるために、後からそこに断熱材を足すという仕事が発生します。今回見学した新型断熱パネルは、“柱-柱間のクリアランス0で、さらに工事時間も短縮できる”という点が大変優れているのです。

今回の現場は、10坪程度のものだったので、すぐ終わってしまうかもしれないと考えて出来るだけ早く来たつもりでしたが、現場に到着した10時前には、壁2面が既に施工を終えていました。壁パネルは午前中にほぼ終了し、午後からは屋根パネルを乗せて固定し、作業は終了です。



間柱を組み込んだ構造用合板に接着された断熱材と一体のパネルです。

クリアランス0の仕組みは、断熱材の端っこにあるスリットを柱・断熱パネル・柱と順番に建てることによってスリット部分を押し潰しながら進めるから。横方向に進んでゆくの、外側にある足場も邪魔にならずに仕事が進みます。



梁でふたをするように、押し潰した断熱材を固定。

複数の大工さんが、手分けして作業するので、更に効率UP。



たくさんの天乾在庫。何よりその豊富な量に、圧倒されると同時に安心を覚えます。

床用のものは3~6ヶ月置いた後に人工乾燥をして製品に仕上げてゆきます。

この断熱パネルの良いところは、「軽い」ところと「構造材ブレイク面があればほとんどの在来工法に対応できる」ところです。鋼製建具等の建築資材の価格が高騰し、建築費を押し上げている現在、このパネルを使用することで約1ヶ月半の工期が短縮できるとなれば、人件費や諸経費も抑えられます。予算に苦しむ多くの物件の中には、適応する物件もあるのではないのでしょうか。そして最後は角館にある広葉樹の専門工場へ。こちらにはたくさんの広葉樹を製材から加工までされている田鉄産業さんがいます。夕方の薄暗い中、数種類の丸太や、製材した板を天然乾燥している山を見学した後、加工工程を説明していただきました。新人スタッフはメモを取り、質問も積極的にしていました。まずは産地を見ることから始まる木童の研修。今回の東北行脚で得た知識は、産地の方々の想いととも、少しずつスタッフの口から直接お伝えしていきたいと思っています。

★国産材を使ってCo2削減！！

2005年に発効された京都議定書において、日本は温室効果ガスの排出を1990年より6%削減するとし、そのうち「3.8%（約1,300トン）を森林の二酸化炭素吸収効果により削減する」としました。今年4月、第一目標期間（2008~12年）におけるCO2排出量は、計算上は排出目標達成と認められたようですが、国産材の使用量の増加および国内森林資源の活性化の気配をあまり感じないのは気のせいでしょうか。「冷暖房の設定温度を1℃上げる」、「エコカーに乗る」などは、多くの方が意識していることと思いますが、実は省エネ等での削減目標は2.2%。森林のCo2吸収効果の方がより高い効果をもたらすと考えられているのに、そのことが知られていないなんて残念すぎます。建築に携わる方々から、ぜひもっともっとメッセージを発信していただきたいと思います。



★家づくり現場レポ① 根来宏典建築研究所・山崎工務店 練馬の家

先日Aさん夫妻のお住まいの引き渡し日に、塗装のお手伝いにお伺いさせていただきました。床には木童の桐油を、お風呂や土間には超・撥水のクリアを塗装しました。桐油はさらっとしておりセルフで塗装しやすいので、コストを抑えたい方にはおすすめです。

「木童の家だね。」設計士の根来さんに言われたように、この家ではたくさんの木童の材を使っていたいただきました。構造材は宮崎県材の舩肥赤杉、床材は同じく宮崎県産の高千穂杉を使用。

寸法は木童の看板商品である相生杉と同じ厚30×幅220です。今回は産地を宮崎にまとめることでコストを抑えました。

1階はキッチンを中心にとしたスペースとなっており、立派なステンレス製のキッチンに無垢板を組み合わせた作りは、料理が好きな奥様も腕に力が入りそうです。キッチンの上は吹き抜けになっており、2階に大きな窓がある為、光が差し込み、空が見えるので、日によって違った表情を見ることが出来ます。とても落ち着くスペースでした。

また、リビングの床材はテレビや家具を置く端っこに節有り材を、目につきやすい真ん中には無節で貼り分けられ、大工さんの配慮が伺えます。

木童的には、この家の一番のポイントは、梁成なんと490mmの特大サイズの構造材です！写真には写っていませんが、今まで木童から出した中で一番太い梁を使用しています。もちろん無垢材です。構造計算上このような寸法になったわけですが、300mm(尺)を超す材でさえ小さく見えるほどの迫力でした。



★家づくり現場レポ② 設計：ROUND ARCHI

神戸市郊外に建つ新婚ご夫婦の家です。土地探しからお付き合いし、約2年。お二人の趣味や好み、普段の生活スタイルが随所に反映された理想の住まいが出来上がりました。玄関を入ると正面に階段があります。ケコミがないので、木の板が白い壁の間に浮いているような軽やかさです。

また、天井のスノコデッキの間から光が差し、入った瞬間に明るく開放的な印象を受けます。リビングの高い天井、ちょっと広めの水回りなど、余裕のある空間づくりが窺えました。



完成まで2年と言ってもその半分は土地探しに費やされました。全体予算は限りがあるので、その中で土地と建物にどのように配分するのか、それによって家の大きさや生活スタイルが大きく異なります。当初は通勤の便利さを優先した土地探しでしたが、次第に家そのものに重点を置く考え方になってゆき、結果、70坪もの広い敷地に延べ床40坪+趣味のバイクを置くガレージ棟までついて、当初の予算から約1000万円近く余裕を持った住まいづくりができました。

KODOH NEWS

- 4月に起きた熊本地震。熊本県にも木童の仲間が多くいることから、たくさんの心配の声をいただきました。
- 幸いにも健康な製材工場では被災を免れ、スタッフ、棟梁みな元気にお仕事されています。
- 震災に関する報道は減ってきていますが、被災地ではまだまだ日常を取り戻す努力の最中です。
- 遠くに住んでいる私たちが出来る継続的な支援は、「製品を買うこと」での経済的な支援だと思います。
- 仲間たちの元気な様子と、熊本県産の杉・ヒノキの魅力を改めてご案内していきたいと思っています。



企画展のご案内 [木童オペラシティショールーム内]

- 第212回企画展 5/30(月)~6/11(土)
「木の家の住みこち」展 U設計室/落合雄二
 - 第213回企画展 6/13(月)~18(土) NPO法人木の家だいきの会
シンプルな焼杉の家[1,5F建て住宅]~セルフビルドでローコストを実現した家~アーキネットデザイン/市川均
 - 第214回企画展 6/20(月)~25(土) NPO法人木の家だいきの会
「季節をあつめて、切りとり、感じる。家づくり」小野育代/小野育代建築設計事務所
 - 第215回企画展 7/11(月)~23(土)
「モダンデザインの木の家」展 植本計画デザイン/植本俊介
- ※木童通信をHPよりダウンロード出来ます。バックナンバーをご希望の方はこちらをご利用下さい。